



ISFJ日本政策学生会議

2007年度活動報告書

02| CONTENTS

- 03| 代表挨拶
- 04| 団体概要

05| 2007年度スケジュール

- 05| 【5月】参加ゼミ説明会
- 06| 【6月】第1回勉強会[東日本]
- 07| 【8月】第2回勉強会[東日本]
- 08| 【6月】第1回勉強会[西日本]
- 09| 【8月】第2回勉強会[西日本]
- 10| 【9月】政策シンポジウム
- 11| 【9月】ディスカッショングループ[西日本]
- 12| 【10月】第1回中間発表会[東日本]
- 13| 【10月】第2回中間発表会[東日本]
- 14| 【10月】第1回中間発表会[西日本]
- 15| 【10月】第2回中間発表会[西日本]

16| 【12月】政策フォーラム2007

- 17| 政策フォーラム2007 参加ゲスト一覧
- 18| 政策フォーラム2007 参加ゲスト一覧
- 19| 政策フォーラム2007 表彰

- 20| その他取り組み～農林水産省訪問
- 21| 財務報告
- 22| 論文審査委員会と特別顧問委員会
- 23| 2008年度へ向けて

24| 協賛企業・団体

25| 参加大学・研究会一覧

代表挨拶



日本政策学生会議
Inter-university Seminar
for the Future of Japan

■ご挨拶

学生から社会に向けて政策提言をおこなう我々ISFJ日本政策学生会議は、本年度設立12年を迎えました。

私達ISFJの活動理念は、望むべき日本社会の実現です。この理念をまっとうするべく、本年度も、社会の先人達が積み残した課題や今まで問題視されてこなかった事柄に焦点を当て、学生ならではの敏感な感性と時代感覚、柔軟な思考を武器に、主体的に解決を試みて参りました。具体的には、複数回にわたって勉強会と中間発表会、政策シンポジウム、政策フォーラムを開催することで、学生同士の議論の場を創出し、より良い政策の提言を目指しました。

また、政策論文を執筆するのみに留まらず、政策論文の効果的な対外発信に注力して参りました。その一つとして、政策フォーラムがあります。大学教授、官僚や政治家、シンクタンクの研究者、そして幅広い社会人の皆様に、学生の考えを伝えてきました。さらに、団体出版本の『学生からの政策提言2007』を発行やwebでの論文データベースの公開、協賛企業様へのニュースレターの送信等も行っております。

ISFJの活動も12年目を迎え、他の学生団体には類を見ない大きさの組織としてなり、社会に対する知名度も序々に大きくなってきていることを日々感じている次第です。しかし同時に、ISFJ自体が旧体制となり、活動が慢性化する恐れのあることを常に自覚しなければなりません。初心を忘れず“学生の政策提言による、望むべき日本社会の実現”という理念に立ち返りながら、組織の新陳代謝を図り、より良い活動を創出し続けなければなりません。

今後とも、ISFJ日本政策学生会議をよろしくお願い致します。

ISFJ日本政策学生会議12期代表
慶應義塾大学 経済学部
塩澤修平研究会所属
有高 佐誉子



団体概要



団体名	ISFJ日本政策学生会議
創設	1994年
今期代表	有高佐誉子
スタッフ	9大学17ゼミ41人(2007年12月現在)
参加者	470人(2007年度政策フォーラム参加者実績、見学者除く)

■ISFJとは

ISFJ日本政策学生会議(ISFJ: Inter-university Seminar for the Future of Japan)とは、学生からの政策提言を通じてより良い日本社会の実現を目指す、インゼミ形式の非営利政策シンクタンクです。団体の規模拡大と共に、設立当初は経済政策に限られていた提言分野も多岐にわたるようになりました。毎年12月には「政策フォーラム」を開催し、政策関係者をお招きし、研究成果の発表・政策提言を行っています。学生団体が運営するカンファレンスとしては日本でも有数の規模であり、昨年度は9大学17研究会の学生が運営し、27大学63研究会の学生が政策提言を行いました。ISFJの理念は、政策研究を行う学生自身の可能性を広げると同時に、研究成果を学生間にとどめず政策提言として社会に発信し、政策立案環境の向上に寄与することです。またISFJは、学生が政策立案者・政策研究者の方々と連携し、産官学の枠組みを越えた政策研究の媒介となることを目指しています。

■活動紹介

①『優れた政策論文を生み出す為の活動』

- ・専門家を招待した勉強会の開催
- ・政策シンポジウム
- ・専門家を招待した中間発表会の開催
- ・論文審査委員会の設置

②『生み出された政策を社会に伝える為の活動』

- ・政策フォーラムの開催
- ・ニュースレターの送信
- ・団体出版本『学生からの政策提言2007』の発行
- ・論文データベースのWEB公開

→具体的な活動内容は2007年活動スケジュールをご覧ください。

※中間査読

「中間論文報告書」を現時点での論文として、学識者の方々に査読して頂き、参加者へ返却を行いました。今後の執筆活動へのアドバイスやコメントが最終論文の質向上へつながったと考えております。

※最終論文提出

政策フォーラムの1ヶ月前に設定し、論文を執筆してもらいました。また提出された論文は1論文につき2名の方に評価頂き、上位となった論文は政策フォーラム当日の論文審査委員会の会議にかけられました。

2007年度活動スケジュール詳細

ISFJ

日本政策学生会議
Inter-university Seminar
for the Future of Japan

【5月】参加ゼミ説明会

ISFJに継続または新規参加予定の学生にISFJの考え・活動内容を理解し、参加していただくことを目的とした説明の場として設けられました。

■企画構成

第1部 ISFJの説明
第2部 昨年度参加者による体験談
第3部 座談会

■開催日時

[東日本]
5月27日(日)14時～15時45分

[西日本]
5月26日(土)14時～16時
5月27日(日)14時～16時

■開催場所

慶応義塾大学・三田キャンパス
同志社大学・今出川キャンパス
大阪大学・豊中キャンパス

■参加ゼミ説明会の目的と概要

ISFJに参加を検討しているゼミに対し、理念と活動内容の詳細を伝えるための説明会です。例年、全国のゼミの活動のスタート時期である4～6月に実施しています。

ISFJでは、提供するプログラムに沿って、一年間をかけて政策提言をしていくゼミを募集するための活動を「ゼミ渉外」と呼んでいます。ゼミ渉外活動は、日本全国のゼミにISFJの活動内容にご理解いただくとともに「学生の政策提言によって社会を変えていく」という理念に共感いただき、ともに問題の所存・現状分析・政策提言に取り組んでいく学生やゼミの輪を広げていくことを目的としております。このゼミ渉外活動の一環として、全国のゼミを一同に集め、大々的に説明を行うイベントが参加ゼミ説明会です。

■企画責任者より

ISFJに関する説明に加え、昨年度の体験談を参加者に話してもらうことにより、充実感・苦労を直接感じることができ、論文執筆へのより具体的なイメージが湧きやすかったのではないかと。

座談会では、少人数に対して運営委員が話をすることで、ISFJの魅力や論文執筆に関して理解してもらい、不安を解消することができたと思う。

【6月】第1回勉強会[東日本]

開催日時 6月24日(日)13:00～18:00
開催場所 慶應義塾大学・三田キャンパス南校舎
参加ゼミ 25ゼミ11大学109名

■企画概要

第1部 「問題意識の重要性について」

第2部 「ロジカルシンキング(仮説⇒検証)を身にける」

参加ゼミに対し、政策立案・提言の実現可能性を高めてもらうために勉強会を開催しました。講演とグループワークの2部構成とし、初めて論文を執筆する人に論文執筆を理解してもらうための機会を設けました。グループワークでは身近な話題を材料に論理的思考力の習得を目指しました。

■ゲスト一覧

塩澤修平様(慶應大学経済学部教授)
池田慈生様(アブラハム・グループ・ホールディングス株式会社取締役)
桜井政和様(税理士法人トーマツ東京事務所)
西山敏樹様(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別研究講師)
山口博道様(株式会社ガイアックス・事業戦略部)
南誠司様(株式会社電通・第15営業局営業部)
胎中康幸様(アクセンチュア株式会社)
山田修様(産業カウンセラーCDA)
順不同



■企画責任者より

「本年度運営委員が主体となり初めて企画・運営したこの行事では、各ゼミの代表者に、ISFJ にかける意気込みを語ってもらいました。それぞれの熱い思いに触れ、一年間全力で活動を創っていくことを我々運営委員も改めて誓う場となりました。

参加者の大半は、本格的に論文執筆に取り組むのが初めてであるため、本勉強会の狙いは論文執筆の基礎習得及び論理的思考への意識づけと設定しました。そして、論文執筆の原則を概観するための全体講演、説明の簡潔さ、明確さ、そして論理の一貫性に焦点を当てたグループディスカッションを企画しました。

会場では、講演内容を熱心にメモする参加者の姿や、筋道の通った結論を追究した闊達なディスカッションが多く見られました。論理的思考の難しさと大切さを知った、他の研究会の人との交流も楽しめた等の声が聞かれ、同じ目標を持つ学生が自主的に集まって勉強し、互いに切磋琢磨していくインターゼミとしての活動が確かに始動したことを実感出来ました。」

【8月】第2回勉強会[東日本]

開催日時 8月5日(日)
開催場所 慶應義塾大学・三田キャンパス
参加ゼミ 9大学・26研究会・104人

■企画概要

第1部全体講演「政策提言をすることの意義」 高山智司様(民主党 衆議院議員)

第2部グループワーク

実際に政策提言に携わっていらっしゃる高山様のお話を聞き、実社会における問題発見から政策提言までの過程の理解を目指しました。またグループワークでは参加者に5つの分科会を選択してもらい(労働雇用・社会保障・環境・金融・財政)、テーマに沿った課題に対してグループで解決法を考え、政策提言をプレゼンテーションをしました。

■第2回勉強会の成果

勉強会後に参加者から回収したアンケートには、「高山様の講演が勉強になった。」という意見が多く記されており、参加した学生にとって非常に有意義な講演となりました。またグループワークでは参加者一人一人が興味・関心を持つ分野に関して知識を深めることが出来たと考えています。全体アンケートでは、9割以上の参加者が今回の勉強会に満足したと回答しており、学生にとって有益なものであったと感じています。

■参加ゲスト一覧

高山智司様(民主党 衆議院議員)※全体講演
仙田正文様(厚生労働省)
渡邊由美子様(厚生労働省)
橘秀徳様(民主党神奈川第13区総支部長)
才田友美様(日本銀行調査統計局 経済分析担当)
上田昌史様(国立情報学研究所)
大川正人様(環境省)
浜島直子様(環境省)
中山元太郎様(環境省)
順不同



■企画責任者より

- ・第一部 勉強会後に参加者から回収したアンケートには、「高山様の講演が勉強になった。」という意見が多く記されており、参加した学生にとって非常に有意義な講演となりました。
- ・第二部 今後参加者が論文を執筆していくうえで参考になるようなものにしたいと考えました。そこで、グループワークの課題の分野を、参加者から提出された論文テーマにしたがって5つに分けました。そうすることで、参加者一人一人が興味・関心を持つ分野に関して知識を深めることが出来たと考えています。
- ・全体 アンケートでは、9割以上の参加者が今回の勉強会に満足したと回答しており、学生にとって有益なものであったと感じています。参加ゼミの方々には、今回学んだことを参考に、より質の高い論文の完成を目指して欲しいです。

【6月】第1回勉強会[西日本]

開催日時 6月24日(日)13:00～18:00
開催場所 大阪大学・豊中キャンパス
参加ゼミ 10大学 21研究会 92名

■企画概要

ISFJ2007の記念すべき第1回目のイベントは、学生の意見発信の基本のツールである論文を焦点にしました。基調講演や昨年度優秀論文発表を通して、論文とは何かを知り、目指すべき論文をイメージすることを目的として、企画されています。

第1部 基調講演「論文とは何か？」 関西大学経済学部教授 本西泰三様

第2部 グループワーク

基調講演で学んだ論文の考え方をグループワークで実践しました。

■第1回勉強会の成果

参加者は主に3年生で構成されます。ですので、論文の書き方という基本から学ぶというコンセプトで、開催した第1回勉強会。参加者は実際に教授から直々に論文の書き方を学ぶことができ、今後の執筆の参考になったと思います。アンケートの声では「論文を読むだけでは分からなかった書き方が、実際に教えてもらうことでより明快に理解することができた」などの声が多く寄せられました。

■参加ゲスト一覧

手島 弘貴様 大阪大学 経済学部 山内直人研究会
本西 泰三様 関西大学 経済学部経済学科 教授
玉井 健二郎様 尼崎市役所 産業経済局総務課



■企画責任者より

今回の第一回勉強会は「論文の書き方を理解する」というテーマで企画いたしました。昨年度優秀論文発表、基調講演、グループワーク等を通じて、「論文の流れ」を理解していただき、それをグループワークで実践していただきました。そして、それが今後の論文作成に役立てることができたならば、幸いです。

また、他大学の学生と議論し、その結果を実務経験者に評価してもらい、意見を交換することで、参加して頂いた皆様が論文を執筆する際の手助けにもなったのではないかと思います。

【8月】第2回勉強会[西日本]

開催日時 8月5日(日)
開催場所 同志社大学 今出川キャンパス
参加ゼミ 13大学27ゼミ91人



■企画概要

関西の第1回勉強会では、我々学生が理念の達成の為に用いるツール「論文」について学びました。今回は、論文の最終目標「政策提言」について焦点をあてて、勉強会を企画しました。コンテンツは以下の通りです。

第1部 基調講演「政策提言とは？」西宮市議会議員 今村 岳司 様

西宮市議会でトップ当選を果たした、今村岳司様から学ぶ政策提言。この講演では、政策立案の際留意すべき点や、政策立案のプロセスを学びました。

第2部 政策勉強会

20人1部屋でゲストを交え、政策立案を実践しました。また加えてその政策案をブラッシュアップしました。この過程を通じて、講演で学んだ事を実践するとともに、議員のアドバイスを通じて政策立案の際に足りてなかった視点などを学びました。

第3部 交流会

政策勉強会の後は、参加者同士の交流を深めるために、交流会を開きました。お酒を交えながら、参加者は楽しそうに話しこんでいました。当日になって、ゲストである議員2名が交流会に参加して下さることになり、ゲストと参加者間の交流も深まりました。一部の参加者はゲストと11時まで語り合っていたとか。

■第2回勉強会の成果

ISFJでは、学生の意見を発信することでよりよい日本の実現を目指しております。その中で最も有益な手段である、政策提言について学んだ当勉強会。参加者は政策を考えている人に実際に会って議論することは今まで無かったことですので、政策提言を考えるプロセスなど大いに学ぶことがあったと思います。「考えを深めることができた」「他大学の人の意見を聞いてよかった」などのアンケートの声が寄せられました。

■参加ゲスト一覧

今村岳司様	西宮市議会議員
栗山雅史様	西宮市議会議員
越田謙治郎様	川西市議会議員
多田浩一郎様	宝塚市議会議員
田中正剛様	西宮市議会議員
福島真治様	大阪市議員



■企画責任者より

今回、関西で初めて第二回勉強会を企画しました。コンセプトは「政策立案のプロセスを学ぶ事」。政策立案のプロセスを学ぶための講演では、西宮市議会でトップ当選を果たした、今村岳司様から政策提言の際考えるべきポイントを6つ学びました。政策勉強会では、講演で学んだ内容を実践し、また足りない視点はゲストにアドバイスを受けながら1つの政策案を立ち上げそれをブラッシュアップしました。これらのコンテンツにより、参加者は政策立案のプロセスを十分に体感できたのではないかと感じております。また企画・運営の観点からも、政策勉強会という個人で発言するコンテンツも初めて実現させたことで、次にまた同様の企画を考えるときの一助となる勉強会であった、と自負しております。

【9月】政策シンポジウム

ISFJ

日本政策学生会議
Inter-university Seminar
for the Future of Japan

ISFJにおける活動は日常の中で問題意識を抱くことから始まります。当イベントでは、フィールドワークを通じて日常から問題意識を探る洞察力を磨きます。ISFJのイベントの中で最も大きいイベントの一つです。

開催日時 8月31日(金)～9月2日(日)
開催場所 京都市中京区 ホテル本能寺会館
参加ゼミ 14大学22ゼミ82人

■企画概要

2泊3日の合宿形式で行われました。京都というフィールドや宿泊という特性を生かして、論文執筆から距離を置いた「社会への問題意識を研ぎ澄ませること」を目標としました。以下コンテンツを詳細です。

■基調講演

①『メディアと政治～サンデープロジェクト誕生秘話～』

サンデープロジェクトという理想の番組を現実のものに仕上げた小関様。ISFJ参加者に対して、理想を現実にするために必要な思考プロセスと行動力を当時のエピソードを織り交ぜつつご講演頂きました。

②『より良い社会を創っていくために今の若者に望むこと』

政界の第一線でご活躍されている前原様。社会の制度を構築していく側の方が今の若者に望むことをご講演いただきました。政策や考え方を変えても、人の意識や地域の取り組みが変わらなければ、社会は変わらない

政策論と運動論の両方が大切であるということを学びました。

■グループワーク

普段の論文作成のように現状の問題点の解決のみに焦点を絞るのではなく、福祉・交通・観光といった様々なフィールドにおいて自分達が本当に望む理想の未来の姿をグループワークを通して考えていただきました。2日目には京都を舞台にフィールドワークをし、描いた理想と現実の違いを実感しました。3日目には理想と現実の間に生じるギャップを埋めるための政策について発表会を行い、未来の理想図を互いに共有しました。

■交流会

グループ内に留まらず、参加者全体で交流を深めてもらうために交流会を1日目の夜に開催しました。お酒を交えながら、普段の論文作成における意見の交換や今回のイベントに対する意気込みについて楽しく語り合いました。運営と参加者間の交流も盛んに行われました。

■参加ゲスト一覧

小関道幸様 朝日放送報道情報局 局次長
前原誠司様 衆議院議員・前民主党代表
花村周寛様 大阪大学コミュニケーションデザインセンター客員教授兼
ランドスケープデザイナー

■企画責任者より

ISFJは学生の大胆かつ自由な発想による政策提言を含んだ論文を集め、その政策を社会に対して発信することを目的とした団体です。しかし、残念ながら実際にISFJに集まる論文には学生らしい大胆な政策提言を含んだ論文は数少なく、現状の問題点を打開することだけに焦点を絞っています。それらの論文は、自分達が思い描く理想の未来を目指しているとは言い難いです。学生が自分達で理想の未来を築いていくというISFJ本来の目的を再認識し、それを実行していくために、今回の政策シンポジウムでは、現状にとらわれず自分達の理想の未来について深く考える場を提供しました。グループワークを通して、理想の未来をとことん追求し、現実を描いた理想に近づける政策を考えるという経験は参加者にとって新鮮であったようで、議論も活発に行われていました。また、3日間昼夜を共にすることで参加者同士の交流も非常に深まりました。

【9月】ディスカッション・グループ[西日本※注]

開催日時 2007年9月23日(土)、9月24日(日)
 開催場所 同志社大学 今出川キャンパス、京都大学 吉田キャンパス
 参加ゼミ 計11大学23ゼミ85人(うち23日:42人、24日:43人)

■企画概要

秋に入り、論文執筆の方向性が見え出す頃、それぞれの論文班の方向性を発表して、ブラッシュアップをすることを目的とした発表会です。学生たちだけで、中間発表会に向けてブラッシュアップしたいという思いから当イベントが実現したので、今回のイベントではゲストはお迎えしていません。具体的には、これまでの期間で、論文作成がどのようにすすんできたか、どのような方向性で研究を進めていくのか、をプレゼンテーションし、参加者間でディスカッションをしました。

■ディスカッション・グループの成果

実際、この時期になっても論文執筆がうまく進んでいないところや、反対に進捗状況が非常に進んでいるところなど、参加者間で完成にむけての相対的な位置が把握できたところが、最も有益な点だと考えています。アンケートには、以下のような声を頂きました。「いろいろな大学の人の意見が聞けてよかった。」「評価シートがあったので、次に生かせそうです。」

■企画責任者より

このディスカッション・グループは関西では初の試みということで、上手く機能するかという懸念もありました。しかし、実際に開催してみて、実に意味のある企画であったと確信しております。まず、論文の執筆を開始してから、初の他大学、他論文班での論文の発表会ということもあり、論文の進捗状況は実にまばらで、正直その速度では間に合わないのではないかと不安に思われる論文班もありました。しかし、このディスカッション・グループの3日後の中間論文提出までには全論文班がそれぞれの論文を立派に完成させてくれました。これも、このディスカッション・グループの時点で、早くもいい論文を書いている他論文班の刺激を受けて他の参加者の方もモチベーションを高めて下さったからだと思います。また、ディスカッション・グループ終了後に、同じ分科会内で、情報交換をしようと、声をかけ合い、メールアドレスを交換している参加者の姿を見て、参加者間の交流という目的もちゃんと果たせたのだと感動しました。

※注: 関東においてはディスカッショングループは、単独のイベントでは開催しておりません。ですから、本ページの記述はすべて関西に関してのみの記述となります。一方、関東では第2回中間発表会の後に、学んだことをフィードバックする形で、付属的に行いました。



【10月】第1回中間発表会[東日本]

開催日時 10月5日(日)
開催場所 慶應義塾大学・日吉キャンパス
参加者 47ゼミ

■企画概要

論文テーマが同じ3~4ゼミ同士で構成された15の分科会を用意しました。分科会では、参加者が研究テーマについての発表、参加者同士での議論を行いました。そして専門の講師の方からコメントを頂きました。また(1)研究成果の発表と(2)政策提言の実務面について学ぶことで、12月1日・2日の政策フォーラムでの発表に活かしてもらうことを目的に行いました。ISFJでは、政策提言論文の質を大きく、「実現可能性」「発想の自由さ」「実証分析の精度」の3点で捉えています。このうち「実現可能性」と「発想の自由さ」の間のバランスは非常に重要なものとなります。発想を重視すれば学生らしいユニークな政策を提言できますが、それと同時に実現は難しいものになってしまうことでしょう。中間発表会ではこの点を重視するため、専門の講師から「実現可能性」に関する指摘を含めコメントを頂くことで、今後の政策立案方針を考える場として考えています。※分科会(参加学生が社会【産官学政の各界の有識者】に自身の政策を提言する場)講演会(政策に携わっている方のお話を聞き、参加ゼミ生の今後の政策提言論文執筆活動の足がかりとする場)

■第1回中間発表会の成果

参加者からは「講師の方々の鋭いご指摘に、今後の指針となりアプローチを見直す機会となった」「自分たちでは見えない点に気づけた」など第一回中間発表会の目的にかなったもので大変満足の高い声がありました。参加者にとって、他ゼミの発表を聞いて発表内容・進捗具合などによる刺激を受けた大変貴重な機会になったのではと思います。

■分科会ゲスト

宗定勇様(日本知的財産協会)	門田かづよ様(特許庁)
宮崎年喜様(三菱リサーチ&コンサルティング)	木村崇之様(農林水産省)
津田栄様(経済金融アナリスト)	藤岡隆雄様(財務省)
渡邊由美子様(厚生労働省)	山田修様(産業カウンセラーCDA)
岩脇千裕様(独立法人労働政策・研修機構)	藤本真様(独立法人労働政策・研修機構)
川越雅弘様(国立社会保障人口問題研究所)	添田隆秀様(経済産業省)
佐藤樹一郎様(経済産業研究所)	西山敏樹様(慶應義塾大学)
小原舞様(松下政経塾)	松崎隆司様(経済ジャーナリスト)
小林由里子様(日本総合研究所)	高橋仁様(松下政経塾政経研究所)
平塚二郎様(環境省)	神山一様(東京都環境局)

順不同

■企画責任者より

すべての論文班に最後まで書ききってもらいたい、というのがこの2度にわたる企画の、いちばん底にあった思い、でした。10月に入りいよいよ「論文を書く」という段階になると、途惑う班、行きづまる班も多く、当初のテーマをあきらめたり辞退を考える班も出てきました。中間発表会は、こうした、参加者のとかく閉鎖的になりがちな論文執筆過程において、いい刺激を受け、次の一步を見出してもらえよう企画となったのではないかと思います。助けとなったのはゲストの先生のコメントだったかもしれませんが、他の班の進捗を知ることだったかもしれません。あるいはすべて書き上げてから気づくこともあるかもしれません。厳しいスケジュールの中でしたが、中間発表会を行ったことが、論文完成までの道のりに良い影響を残せていたら幸いです。また、最後になりましたが、今回は多くの先生方にゲストコメンテーターとしてこの活動にご協力いただきました。先生方のご理解とご厚意によって、多くの参加学生に有意義な時間となりましたこと、心より感謝申し上げます。

【10月】第2回中間発表会[東日本]

開催日時 10月28日(日)
開催場所 慶應義塾大学・日吉キャンパス
参加者 28ゼミ

■企画概要

分科会は、講師として教授、実務家をお呼びし、アカデミックな観点からご意見を頂き、論文内容と政策提言の整合性を確認する機会とした。また、プレゼンテーション講座では政策フォーラムで実務家に対してより良い政策提言を行うために、説得力のあるプレゼンテーション方法を学ぶ機会とした。

■第2回中間発表会の成果

第一回中間発表会で実務家の方々から貴重なご意見を頂き、参加者はそのご意見を基に論文の内容や方向性を修正して臨んだのが今回の企画でした。今回は主にアカデミックな観点からのアプローチに重点をおいたので、参加者は分析方法を含めた論文内容と政策提言との整合性を確認できたと考えています。また、参加者は互いの発表や質問から何らかのヒントを得られたと思います。プレゼンテーション講座については、政策提言を社会に発信するというISFJの目的を考えた場合、目的の根幹となる企画であり、参加者にとって大変意義のある企画であったと思います。また論文最終提出を控えた時期であったため、論文最終調整としてこの企画が機能したのではないかと考えています。アンケート結果には「プレゼンテーション講座が非常に分かりやすく、目から鱗がぼろぼろ落ちるものだった」といった声や、分科会については「他ゼミや先生の質問により改善すべき点が明確になった。」「論文の今後の方向性を定められた。」などの声があった。

■分科会ゲスト

全体講演	胎中康幸様(アクセンチュア株式会社)※プレゼンテーション講座
国際金融	加野忠様(青葉台リサーチ&コンサルティング) 鈴木明久様(衆議院議員 大串博士事務所 政策担当秘書)
金融	森本孝之様(一橋大学大学院 経済研究科 特任講師)
財政	千田亮吉様(明治大学 商学部 教授)
労働雇用A	出島敬久様(上智大学 経済学部 准教授)
労働雇用B	伊藤裕一様(慶應義塾大学 総合政策学部 講師)
医療	遠藤久夫様(学習院大学 経済学部 教授)
産業競争	高山智司様(民主党 衆議院議員)
農業	高山智司様(民主党 衆議院議員)
環境A	和気洋子様(慶應義塾大学 商学部 教授) 福山哲郎様(民主党 参議院議員) 勝木一郎様(民主党 岡崎トミ子事務所 政策担当秘書)
環境B	南部和香様(明治大学 商学部 講師) 勝木一郎様(民主党 岡崎トミ子事務所 政策担当秘書)
知的財産	田中辰雄様(慶應義塾大学 経済学部 准教授)
行政	奥迫元様(早稲田大学 社会科学部 専任講師)
社会保障	岩本康志様(東京大学大学院 経済学研究科 教授)

■企画責任者より

第一回中間発表会で実務家の方々から貴重なご意見を頂き、参加者はそのご意見を基に論文の内容や方向性を修正して臨んだのが今回の企画でした。今回は主にアカデミックな観点からのアプローチに重点をおいたので、参加者は分析方法を含めた論文内容と政策提言との整合性を確認できたと考えています。また、参加者は互いの発表や質問からヒントを得られたと思います。

プレゼンテーション講座は、政策提言を発信するという弊団体の目的を考えたとき、目的の根幹となる企画であり、参加者にとって意義のある企画であったと思います。実際、講師の方による講演は「伝える」ということを主眼に置いた内容であり、政策フォーラムでの発表の参考となりました。参加者にとって、第二回中間発表会は政策フォーラムに繋がる企画でした。これはもちろん参加者の皆様自身によるものもありますが、当日ご出席頂いた講師の方々から貴重なご意見をくださったおかげであることが一番であります。この場をお借りして、講師の方々のご厚情に心より御礼申し上げます。

【10月】第1回中間発表会[西日本]

開催日時 10月5日(日)
開催場所 2007年10月6日(土)、京都大学 吉田キャンパス
2007年10月7日(日)、同志社大学 新町キャンパス
参加者 12大学31ゼミ175名(うち1日目62名、2日目113名)

■企画概要

10月中に2度開催する中間発表会は、以下の4点を目的としています。

- ①ゲストコメンテーターからの助言や指摘により、論文の質を向上させること
- ②他論文の進捗を知ることや発表内容の段階設定により、論文執筆におけるペースメーカーとして活用すること
- ③プレゼンテーションの技術向上をはかること
- ④参加者間の交流

11月5日の締め切りに向けて政策提言論文を書き上げようとしている参加者に、より質の高い政策提言・論文を目指してもらうため、「中間発表会」の第1回として行いました。今回は論文執筆の初期段階であり、論文の方向性を定め具体的な分析まで入っていこうとする時期ということを加味し、発表内容を「現状整理」「問題意識」「分析の方向性」までとしました。

企画内容は、論文テーマに共通性のある3~4の論文班で分科会を構成し(全部で12分科会)、参加者による発表・各分科会に1~2名お呼びしたゲストコメンテーターからの助言や指摘・参加者間の質疑応答という内容を、論文班ごとに行いました。

■第1回中間発表会の成果

「ゲストの方がかなり親身にコメントしてくださり、他の班の発表もわかりやすくなったし、他の班のコメントも大変参考になった。」「方向性が確立できたことが良かった。」など多数の嬉しいご意見を頂いた。論文の執筆が佳境になってきたこの時期に、他の論文の進捗状況を確認することや、アドバイスをいただくことは大いに有益であったと思います。

■分科会ゲスト

同志社大学経済学部教授 八木匡先生
立命館大学経済学部教授 古川彰先生
関西大学経済学部教授 本西泰三先生
関西大学経済学部教授 林宏昭先生
堺市教育委員会 東孝彦様
国立情報学研究所・および 総合研究大学院大学・複合科学研究所助教 上田昌史様
(財)関西社会経済研究所・大阪大学大学院経済学研究科 北浦義明様
京都大学経済学研究科 柚木孝裕様
京都大学経済学研究科 黒田敏史様
大阪大学経済学研究科 大竹健二様
同志社大学総合政策科学研究科 濱田裕章様
順不同

■企画責任者より

論文を実際に書き始めると途惑ってしまう参加者も多い中で、今回の企画は参加者にとって、「次に何をすればよいのか」「自分たちの進み具合は今の状況でいいのか」といったことを、テーマに精通されたゲストの方のコメントや、分科会内の他の論文班の進捗状況から知ることのできるいい機会になったのではないかと思います。特に、論文執筆中は論文班の中で悩むことが多く、閉鎖的になりがちのようですが、同じようなテーマを扱う他の班の様子を知るとは、テーマを固める上でも、今後の分析・提言を考える上でも、大変有用だったようです。参加者が論文を書き上げる上で、最初の方向付けのヒントとして、意義ある企画になったかと思っています。

【10月】第2回中間発表会〔西日本〕

開催日時 10月27日(土)、10月28日(日)
開催場所 京都大学 吉田キャンパス、大阪大学 豊中キャンパス
参加者 12大学29ゼミ155名(うち1日目57名、2日目98名)

■企画概要

10月中に2度開催する中間発表会は、以下の4点を目的としています。

- ①ゲストコメンターからの助言や指摘により、論文の質を向上させること
- ②他論文の進捗を知ることや発表内容の段階設定により、論文執筆におけるペースメーカーとして活用すること
- ③プレゼンテーションの技術向上をはかること
- ④参加者間の交流

この企画は、11月5日の締め切りに向けて政策提言論文を書き上げようとしている参加者に、より質の高い政策提言・論文を目指してもらうため、「中間発表会」の第2回として行いました。今回は論文提出まで約1週間という時期でもあり、分析を終え論文を仕上げる最終段階であることを加味し、「分析」「政策提言」を中心に論文全体を発表内容として設定しました。

企画内容は、第1回と同様、論文テーマに共通性のある3~4の論文班で分科会を構成し(全部で12分科会)、参加者による発表・各分科会に1~2名お呼びしたゲストコメンターからの助言や指摘・参加者間の質疑応答という内容を、論文班ごとに行いました。

■第2回中間発表会の成果

「自分では漠然としていたロジックの弱みをずばりついてもらえたので、今後最終論文を仕上げるにあたり大変参考になりました。」「先生の指摘が適切だったので、それを頼りに最後の修正にとりかかろうと思います」「ゲストのコメントにより、今後の方向性が見えました」などのご感想を頂きました。最終論文に向けて、最後の手直しをするための有益なイベントとなったと思います。

■分科会ゲスト

京都大学大学院教育学研究科教授 大塚雄作先生
神戸大学経済学部教授 地主敏樹先生
大阪大学外国語学部教授 野村茂治先生
同志社大学経済学部教授 八木教授
立命館大学経済学部教授 古川彰先生
大阪市立大学大学院経済学研究科教授 山下英次先生
大阪産業大学経済学部教授 齊藤立滋先生
丹波市財政課主査・関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 木村成志様
京都大学経済学研究科 柚木孝裕様
京都大学経済学研究科 黒田敏史様
大阪大学大学院経済学研究科 桑山順一様
同志社大学総合政策科学研究科 濱田裕章様
順不同

■企画責任者より

いよいよ論文提出まで約1週間という時期に開催したこの企画は、厳しいスケジュールの中でしたが、その分参加者も高いモチベーションで参加してくれました。この時期になると論文の方向性という面ではほぼ固まって、分析などの面で、ゲストのコメント・アドバイスが役に立ったようです。普段の論文執筆やゼミ内の議論だけでは失われがちな、客観的な視点で見直してみる、ということのきっかけにもなったと思います。参加者のアンケートにも、ゲストのコメントが有益だったとの評価が多く、論文を完成させるにあたり、参加者にいい時間を提供できたのではないかと思います。

【12月】政策フォーラム2007

ISFJ

日本政策学生会議
Inter-university Seminar
for the Future of Japan

■企画概要

政策フォーラムとは、毎年12月期に行われるISFJの集大成のイベントです。この政策フォーラムで、一年間参加ゼミが研究してきた政策提言を発信しました。全国から多くのゼミが一堂に会し、産官学政の各界の有識者もゲストコメンテーターとして参加しました。

政策フォーラムの目的・位置づけとしては二点挙げられます。一点目は、勉強会などを通じて作成された論文について発表する場、つまりは理念である学生の意見を社会に発信する場です。二点目としては、このフォーラムで提言を行い、そこで全てが終わるのではなく、産官学政の各界の有識者とのディスカッションを踏まえて、さらなる論文の向上、つまりは「通過点」としての位置づけの二点です。総じて、政策フォーラムとは産官学が横断的に議論を行える場所を提供することで、学生が社会へ向けて政策提言をし、社会を変えてゆこうというISFJの理念を達成しようということ、そして参加ゼミの更なる論文の質向上の通過点というのがISFJ政策フォーラムです。

■タイムライン

【1日目】

- 10:00～10:15 開会式(531教室)
- 10:15～11:30 パネルディスカッション
- 11:30～12:30 移動・準備・昼食時間
- 12:30～13:20 発表①
- 13:20～14:10 発表②
- 14:10～14:30 休憩
- 14:30～15:20 発表③
- 15:20～16:10 発表④
- 16:10～17:00 発表⑤

【2日目】

- 09:30～10:20 発表⑤
- 10:20～11:10 発表⑥
- 11:10～11:30 休憩
- 11:30～12:20 発表⑦
- 12:20～13:10 発表⑧
- 13:10～14:00 休憩
- 14:00～15:00 学生フリーディスカッション
- 15:00～15:20 移動・休憩
- 15:30～16:30 小池百合子氏講演(西校舎ホール)
- 16:35～ 閉会の言葉・優秀論文賞表彰
- 17:30～ 優秀論文プレゼンテーション
- 18:00～ 閉会式



【12月】政策フォーラム2007



■ゲスト一覧(1)

【分科会名】	【ゲスト氏名】	
・農業	木村 崇之	農林水産省 大臣官房企画評価課
	山田 康平	船井総合研究所 第三経営支援部 フードビジネスチーム
	池田 辰雄	全国農業会議所 新聞事業本部長
	小川 勝也	衆議院議員 民主党
・都市政策	坂本 慶介	国土交通省 政策統括官付 参事官(物流政策)付 国際物流政策企画官
	藤原 健二	国土交通省 都市地域整備局 まちづくり推進課
	奥田 恵子	財団法人 運輸調査局
	田村 明比古	国土交通省 交通局総務課長
	武田 一寧	国土交通省 総合政策局 観光地域振興課
労働雇用A	渡邊 由美子	雇用均等・児童家庭局 短時間・在宅労働課
	山田 修	産業カウンセラーCDA
	藤本 真	独立行政法人 労働政策研究・研修機構 人材育成部門
労働雇用B	猿山 純夫	日本経済研究センター
	石塚 真里	三菱総合研究所 独立行政法人 主席研究員
	岩脇 千裕	労働政策研究・研修機構 キャリアガイダンス部門
	藤井 宏一	労働政策研究・研修機構 雇用戦略部門
環境	田畑 壽邦	三菱UFJリサーチ&コンサルティング 総合相談部
	藤末 健三	民主党 参議院議員
	上田 昌史	国立情報学研究所(NII) 情報社会関連研究系
	中山 元太郎	環境省 総合環境政策局環境経済課
	平塚 二郎	環境省 化学物質審査室
社会保障	吉田 直樹	三菱総合研究所
	小林 由里子	日本総合研究所
	高橋 仁	松下政経塾政経研究所
	日下部 恵一郎	鈴木寛公設第二秘書
	山田 章平	厚生労働省 政策統括官付社会保障担当参事官室
医療	西島 英利	衆議院議員 自由民主党
	山田 章平	厚生労働省 政策統括官付社会保障担当参事官室
	小坂 和輝	中央区区議会議員
	遠藤 久夫	学習院大学経済学部 教授

【12月】政策フォーラム2007

■ゲスト一覧(2)

【分科会名】	【ゲスト氏名】	
産業競争	高山 智司	衆議院議員 民主党
	八代 尚光	経済産業省 経済産業政策局 調査課
	門田 かつよ	特許庁 総務部 企画調査課
	佐藤 樹一郎	独立行政法人 経済産業研究所 副所長
国際経済	宮崎 年喜	三菱UFJリサーチ&コンサルティング 国際事業本部 海外アドバイザー事業部
	二村 泰弘	JETROアジア経済研究所 新領域研究センター
	藤岡 隆雄	金融庁 関東財務局理財部
	田幸 大輔	経済同友会 企画・政策調査マネジャー
金融	藤岡 隆雄	財務省 関東財務局理財部
	津田 栄	経済金融アナリスト
	加野 忠	青葉台リサーチ&リサーチコンサルティング
	松崎 隆司	経済ジャーナリスト
行政	小野 貴樹	坂井学衆議院議員秘書
	落合 純	総務省 行政評価局行政相談課
	奥迫 元	早稲田大学社会科学部 専任講師(1日目)
	落合 純	行政評価局行政相談課
財政	長島 直樹	富士通総研(FRI)経済研究所 上席主任研究員
	梅溪 健児	内閣府 大臣官房審議官(経済財政運営担当)経済財政国際室長
	小黑 一正	財務省財務総合政策研究所
	白石 浩介	三菱総合研究所 政策・経済研究センター

(順不同・敬称略)



【12月】政策フォーラム2007

ISFJ

日本政策学生会議
Inter-university Seminar
for the Future of Japan

■2007年度最優秀論文賞

大学名	研究会名	論文テーマ	分科会
東北大学	泉田成美研究会	出版業界の再販売価格維持行為は社会的に望ましいのか	産業競争

【政策提言賞】

慶應義塾大学	土居丈朗研究会	道州財政の持続可能性～地方分権と破綻回避の両立に向けた提言～	財政
--------	---------	--------------------------------	----

【優秀論文賞】

慶應義塾大学	土居丈朗研究会	道州財政の持続可能性～地方分権と破綻回避の両立に向けた提言～	財政
--------	---------	--------------------------------	----

明治大学	戸崎肇研究会	新ディーゼルによるCO2削減政策	環境
------	--------	------------------	----

早稲田大学	藪下史郎研究会	公共ホールはどうあるべきか～独自の調査をもとに～	都市政策
-------	---------	--------------------------	------



その他の取り組み～ 農林水産省訪問

開催日時 11月29日
開催場所 農林水産省
参加者 明治大学の千田亮吉研究会と齋藤雅巳研究会

2007年11月29日、「農業」分科会に参加する明治大学の千田亮吉研究会と齋藤雅巳研究会の学生が農林水産省を訪れました。農林水産省大臣官房企画評価課の企画官である木村崇之様をはじめ4名の職員方を前にして“政策提言”を行いました。

職員方は学生の提言に真剣に耳を傾け、質問をされました。両ゼミとも、厳しい質問にも動じることなく、自分たちの提言を行うことができました。活発な質疑が行われた後、それぞれの提言に対し農水省職員からコメントをしていただきました。それぞれの提言に対し高い評価を頂き、終えることができました。

木村様には第1回中間発表会と政策フォーラムにもご参加頂き、学生の提言に対して有意義なコメントをしていただきました。今回の農水省訪問は学生にとって貴重な経験であると同時に、ISFJ日本政策学生会議にとっても“学生からの政策提言”を国政へ届ける機会ともなりました。また、貴重な機会を提供していただいた木村様をはじめとして農林水産省の職員の方々に感謝・御礼申し上げます。



財務報告



日本政策学生会議
Inter-university Seminar
for the Future of Japan

ISFJの2007年度の収入は3,636,402円、内訳は企業様からのご協賛金、並びにISFJ参加学生からの参加費用となっております。支出は2,059,011円で、内訳は主に各企画費、広報費となっております。また、次年度への繰越金は、2006年度から実施した会計監査制度による大幅なコスト削減に伴い、1,127,391円と、例年を上回る水準になりました。繰越金は、ISFJ2008春期研修会制度等運営費用として次年度予算に割り当てる予定となっております。

※2007年度財務報告書は、関東支部会計・関西支部会計合同で作成致しました。※なお、政策シンポジウムの際に、物品協賛として株式会社大阪めいらく様より5万円のご協賛を頂きました。

支出		収入	
科目		科目	
1.関東参加ゼミ説明会	5,147	1.ゼミ論文参加費	370,000
2.関東第1回勉強会	16,869	2.シンポジウム参加費	1,167,000
3.関東第2回勉強会	22,415	3.出版本売上	51,500
4.関東第1回中間発表会	16,267	4.協賛金収入	1,112,642
5.関東第2回中間発表会	12,529	野村グループ	200,000
6.関西参加ゼミ説明会	-	極東証券	150,000
7.関西第1回勉強会	16,010	エン・ジャパン株式会社	125,000
8.関西第2回勉強会	9,108	ジースタイラス	55,000
9.関西シンポジウム	1,190,837	株式会社ガーディアンシップ	50,000
宿泊費	820,000	株式会社有斐閣	50,000
懇親会費	30,051	株式会社リーガルマインド	50,000
ゲスト交通費・昼食費	45,300	松下電器産業株式会社	100,000
事務備品費	211,280	ひかりのくに株式会社	70,000
フィールドワーク交通費	61,000	住友生命保険相互会社	25,000
運搬費	19,906	加藤産業株式会社	50,000
雑費	3,300	その他企業	19,685
10.関西中間発表会	65,094	個人協賛	20,000
11.政策フォーラム	298,834	OB協賛	147,957
ゲストお礼代・交通費・諸経費	53,715	5.合宿費残金	615
優秀論文特典	80,000	6.受取利息	267
表彰状代	12,099	7.前期繰越金	934,378
論文審査費	23,105		
印刷費	22,200		
事務備品費	15,361		
ビラ・パンフレット代	83,514		
雑費	8,840		
12.東西出張費	68,500		
13.広報費	73,150		
サイト運営費	9,710		
名刺代	63,440		
14.2006年度出版費用	458,085		
15.2006年度パンフレット増刷費用	141,880		
16.2006年度機関紙送料	4,750		
17.運営・渉外費用	174,630		
当期支出合計	2,509,011		
次期繰越金	1,127,391		
支出合計	3,636,402	収入合計	3,636,402

論文審査委員会と特別顧問委員会

■論文審査委員会

ISFJでは、参加ゼミより提出された論文を、より適正かつ公平に審査するために、大学教授、准教授、民間シンクタンク研究員などの有識者の方々50名程度で組織される論文審査委員会を設けております。審査結果に公平性を持たせるため、前年度の優秀論文を基準論文としそれを基に評価すること、そして同じ論文を2名の審査員の方に評価してもらっております。

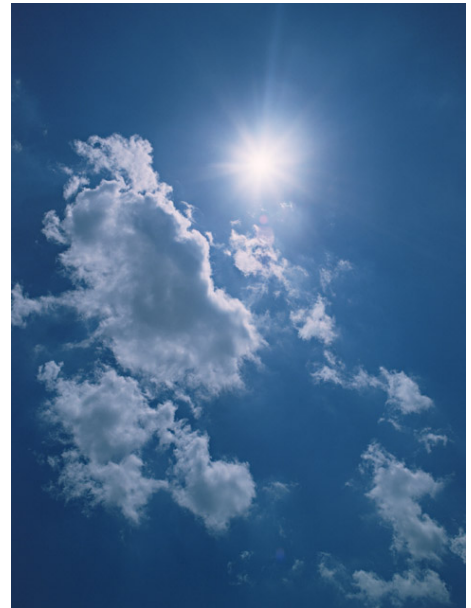
■2007年度論文審査委員会

2007年度論文審査委員会委員長
鶴飼康東教授（関西大学総合情報学部）

論文審査項目

1. 論文の体裁
2. 問題意識の独自性
3. 問題意識の重要性
4. 分析結果の独自性
5. 分析の客観性
6. 政策提言の独自性
7. 政策提言の現実性・重要性

（以上の7項目を審査対象としております）



■特別顧問委員会

特別顧問委員会は大学教授を中心に組織される委員会で、ISFJの運営や企画、論文審査についてのアドバイスを頂く機関となっております。また政策フォーラム当日における、最優秀賞の選定、優秀賞の決定を行って頂き、講評をして頂きました。

2007年度特別顧問委員

鶴飼康東教授（関西大学総合情報学部）
佐藤主光准教授（一橋大学経済学部）
塩澤修平教授（慶應義塾大学経済学部）
千田亮吉教授（明治大学商学部）
戸崎肇教授（明治大学商学部）※
山内直人教授（大阪大学経済学部）
藤野次雄教授（横浜市立大学国際総合科学部）
横山彰教授（中央大学総合政策学部）

（50音順）

※戸崎先生は担当研究会の論文が最終選考に残っていませんでしたので、公平を期すために最終選考からは外れていただきました。

2008年度に向けて

ISFJ

日本政策学生会議
Inter-university Seminar
for the Future of Japan

以下のような課題と方針のもと、2008年度も積極的に私たちは組織の新陳代謝を図っていきます。対外的に透明性を図り、外からもわかるように、努力して参る次第ですので、今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願い致します。

■ 対外団体との連携を強化

ISFJが勉強会、報告会、政策シンポジウム、政策フォーラムを開催する上で、外部からのゲストは必要不可欠な存在となってきています。これからは、こうした協力を組織的な繋がりの中で築くことで、より長期的な関係を構築する中で、政策論文を執筆する必要があるでしょう。

■ 担当教官のコミットメントを強化

各研究会がISFJで論文を執筆する際には、担当教官に論文の監督をしてもらっています。こうした担当教官の役割を強化し、ISFJの活動が円滑に進むように、担当教官には、論文の審査・査読で協力を要請する必要があると考えています。

■ 東西の統一と共に、より充実した事業を計画

私たちは、「政策市場に通用する政策論文の執筆」を達成するために、「論文の質」を向上させる事業を展開する必要があります。そのために、私たちは、「政策論文の社会への効果的な発信」を達成すべく、「政策発信効果」に特化した事業も積極的に展開していきます。さらに、こうした活動を東西の事業で、統一性を強化することで、より組織的な一体感を構築していきます。

■ 論文執筆者と運営者を統合

近年、組織が拡大する中で、ISFJに対する認知度を拡大させると共に、より多くのひとを巻き込むことができるようになりました。ただ、その一方で、小さな組織でないために、参加者と運営で齟齬が生じが出てくる可能性も考えられます。私たちは、常日頃から、論文執筆者と運営委員の分離が起こらないよう、意識して活動に携わります。

■ 理念および使命を追求

本報告書の冒頭にもありましたように、「学生の政策論文を通じた、よりよい日本社会の実現」という理念は、ISFJの存在意義です。必ず理念と使命に立ち返りながら来年度も活動をしていきます。

協賛企業・団体

■特別協賛企業一覧

野村証券株式会社

■協賛企業一覧

極東証券株式会社
エン・ジャパン株式会社
松下電器産業株式会社
ひかりのくに株式会社
株式会社ジースタイラス
株式会社ガーディアンウィル
関西電力株式会社
株式会社東京リーガルマインド
株式会社有斐閣
住友生命保険相互会社
加藤産業株式会社
めいらくグループ
政策分析ネットワーク

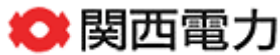
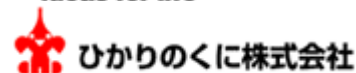
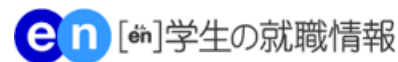
ISFJでは協賛企業様からの協賛金にて運営費用をまかなっております。
以上12の企業様、政策分析ネットワーク様に深く御礼申し上げます。

■後援団体一覧

社団法人日本経済研究センター
三菱総合研究所
財団法人松下政経塾

以上の団体にご後援いただきました。深く御礼申し上げます。

野村証券グループ
BASIC&DYNAMIC



参加大学・研究会一覽



- | | | | |
|---------|---------|--------|----------|
| 宇都宮大学 | 中村祐司研究室 | 中央大学 | 横山彰研究会 |
| 大阪大学 | 山内直人研究会 | 中央大学 | 砂川和範研究会 |
| 大阪大学 | 野村茂治研究会 | 東京大学 | 高原明生研究会 |
| 大阪大学 | 森栗茂一研究会 | 同志社大学 | 伊多波良雄研究会 |
| 大阪市立大学 | 朴一研究会 | 同志社大学 | 田中宏樹研究会 |
| 大阪市立大学 | 山下英次研究会 | 同志社大学 | 八木匡研究会 |
| 関西大学 | 鶴飼康東研究会 | 同志社大学 | 山田礼子研究会 |
| 関西大学 | 林宏昭研究会 | 東北大学 | 泉田成美研究会 |
| 関西大学 | 前川聡子研究会 | 東北大学 | 西澤昭夫研究会 |
| 関西学院大学 | 井口泰研究会 | 東北大学 | 鴨池治研究会 |
| 北九州市立大学 | 古賀哲矢研究会 | 名古屋大学 | 多和田眞研究会 |
| 北九州市立大学 | 申東愛研究会 | 日本大学 | 都市計画研究室 |
| 九州大学 | 細江守紀研究会 | 一橋大学 | 佐藤主光研究会 |
| 京都大学 | 岩本武和研究会 | 明治大学 | 生田保夫研究会 |
| 京都大学 | 吉田和男研究会 | 明治大学 | 加藤久和研究会 |
| 京都産業大学 | 田中寧研究会 | 明治大学 | 齋藤雅巳研究会 |
| 京都産業大学 | 岑智偉研究会 | 明治大学 | 千田亮吉研究会 |
| 京都産業大学 | 福井唯嗣研究会 | 明治大学 | 戸崎肇研究会 |
| 京都産業大学 | 藤野敦子研究会 | 明治大学 | 西野万里研究会 |
| 慶應義塾大学 | 跡田直澄研究会 | 明治大学 | 福田邦夫研究会 |
| 慶應義塾大学 | 大村達弥研究会 | 立教大学 | 高原明生研究会 |
| 慶應義塾大学 | 櫻川昌哉研究会 | 立命館大学 | 古川彰研究会 |
| 慶應義塾大学 | 竹森俊平研究会 | 立命館大学 | 宮脇昇研究会 |
| 慶應義塾大学 | 土居史朗研究会 | 横浜市立大学 | 藤野次雄研究会 |
| 慶應義塾大学 | 中澤敏明研究会 | 早稲田大学 | 久保田隆研究会 |
| 慶應義塾大学 | 樋口美雄研究会 | 早稲田大学 | 須賀晃一研究会 |
| 慶應義塾大学 | 吉野直行研究会 | 早稲田大学 | 深川由起子研究会 |
| 慶應義塾大学 | 若杉隆平研究会 | 早稲田大学 | 藪下史郎研究会 |
| 慶應義塾大学 | 渡部和孝研究会 | | |
| 神戸大学 | 石黒馨研究会 | | |
| 神戸大学 | 石原享一研究会 | | |
| 神戸大学 | 菊地徹研究会 | | |
| 神戸大学 | 忽那憲治研究会 | | |
| 神戸大学 | 久保広正研究会 | | |
| 神戸大学 | 地主敏樹研究会 | | |
| 神戸大学 | 松林洋一研究会 | | |
| 神戸大学 | 有馬敏則研究会 | | |
| 滋賀大学 | 倉阪秀史研究会 | | |
| 千葉大学 | | | |

* 五十音順

ISFJ日本政策学生会議 活動報告書2007

- 代表 有高佐誉子（慶應義塾大学）
- 執筆 鶴川洋輔（大阪大学）
岡山康太（大阪大学）
尾関悠太（慶應義塾大学）
木村祐介（大阪大学）
齊藤悠介（大阪大学）
清家悠里（明治大学）
根本憲一（明治大学）
浜田智子（京都大学）
的場千明（大阪大学）
森田整（大阪大学）
横浜圭一郎（横浜市立大学）
* 五十音順
- 編集 田前甫（慶應義塾大学）
金生由香里（明治大学）
鶴川洋輔（大阪大学）
的場千明（大阪大学）
- 発行 2008年3月31日
- 連絡先 info@isfj.net
上記まで、メールにてお願い致します。